ボランティア派遣

プロジェクトの背景
JHP設立以前の1991年に、小山内代表が湾戦戦後のイラク難民救援に参加。ここで初めて大学生と活動を共にし、その成長する姿を観たことがある。同時に、地球の視野を持つ若者を育成する事業を開始。これまで、海外は、カンボジア、旧ユーゴスラビア、アフリカ、インド、ボスニアなど、国内は、阪神淡路大震災、日本海満南部災、中越地震、三宅島帰島、東日本大震災などの救援活動にボランティア派遣している。

アフリカへ毛布をおく運動
JHPはアフリカへ毛布をおく運動推進委員会の構成団体として活動しています。この活動では、30年以上にアフリカ20か国以上に406万枚以上の毛布を送っています。

2014年度は、毛布募集に継続的に携わりました。同委員会に2014年度寄せられた毛布30,428枚、海外輸送協力金額約30,110,523円は、ケニア、マラウイ、モザンビーク、コンゴの4カ国に届けられました。

カンボジアボランティア隊
今年度は、8月隊のみ(2014年8月8日～25日)13名を派遣しました。北部のバトンバン州の小学校にて遊具(ブランコ)の建設に汗を流し、学校贈呈式にも参加し、ソーラン節なども披露。その他、JHPプロジェクト見学、NGO見学等を行いました。

参加者の感想
カンボジアの子供たちはとても一つ一つの幸せを大切にし、幸せを感じているので、まるい。行く前の私は、私自身の幸せがどの子供たちを乾燥してしまい、今感ずる幸せを、感ずる幸せではなく自分自身で観しさから得て作ることから感じます。その一つが笑顔だと思います。(2014年8月隊 金城 早苗)

支援を受けながらも、少しずつ成長しているカンボジアの可能性を感じました。何よりも成長していく社会を支えていく子供たちがJHPの校舎で学び、将来を見ることを考えると、今回ブランコ建設という形で支援に関わったことをとても嬉しく思います。そして最初は皆で押ししてもらいたい子供たちが堂々と広げて、もって高くて自らブランコを遊んでいる姿が彼らの未来、さらにカンボジアのこれからに重ねて見えたこと、忘れていないと思います。(2014年8月隊 竹内 朋貴)